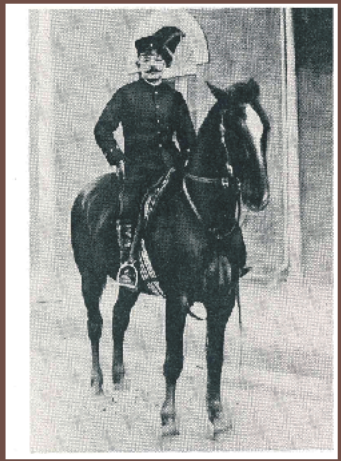
秋山好古の墓
Yoshifuru Akiyama's Tombstone

好古は同時代のあらゆるひとびとから、
「最後の古武士」
　とか、戦国の豪傑の再来などといわれた。しかし本来はどうなのであろう。
　考える材料が二つある。ひとつは、かれは他の軍人のばあいのようにその晩年、自分のこどもたちを軍人にしようというきもちはさらになかった。福沢諭吉の思想と人物を尊敬し、その教育に同感し、自分のこどもたちを幼稚舎から慶応に入れ、結局ふつうの市民にした。
　いまひとつは、かれが松山でおくった少年のころや大阪と名古屋でくらした教員時代、ひとびとはかれからおよそ豪傑を想像しなかった。おだやかで親切な少年であり、青年であったにすぎない。それが、官費で学問ができるというので軍人になった。

司馬遼太郎著『坂の上の雲』（文藝春秋刊）単行本：1巻より



馬上の秋山好古
Yoshifuru Akiyama on horseback